

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成26年8月21日(2014.8.21)

【公表番号】特表2013-543705(P2013-543705A)

【公表日】平成25年12月5日(2013.12.5)

【年通号数】公開・登録公報2013-065

【出願番号】特願2013-531891(P2013-531891)

【国際特許分類】

H 04 W 24/10 (2009.01)

H 04 W 28/18 (2009.01)

【F I】

H 04 W 24/10

H 04 W 28/18 1 1 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年6月30日(2014.6.30)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 1 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 1 7】

いくつかの態様では、APは、CSIフィードバック制御フィールド1110a中の情報に基づいて、STAに情報を送るためのパラメータを調整してもよい。例えば、NDPA/NDP未送信サブフィールド1236が、以前に送信したNDPAまたはNDPが受信されなかったことを示しているときに、APは、NDPAまたはNPを再度送信してもよく、または、将来のNDPAおよび/またはNDPを送るために使用されるPHYレートのような、レートを減少させてもよい。NDPA/NDP未送信サブフィールド1236が、以前に送信されたNDPAおよびNDPが受信されたことを示している場合に、APは、レートを増加させてもよく、または、変調スキームのような、別のパラメータを調整してもよい。さらに、CSIフィードバック制御フィールド1110aが、チャネルが変化していない、または、ほとんど変化していないことを示す場合に、APは、例えば、NDPA/NDP未送信サブフィールド1236および/または差分CSIサブフィールド1238を使用して、APがSTAからCSIを要求する頻度を減少させてもよい。同様に、APが、毎回完全なCSIを受信する場合に、または、チャネルが急速に変化しているように見える場合に、APは、APがSTAからCSIを要求する頻度を増加させてよい。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 4 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 4 6】

先に論じたように、いくつかの態様では、NDPAモジュール1302は、例えば、CSIに、または、CSIフィードバックで示されたチャネル条件の変化に少なくとも部分的に基づいて、NDPAフレームを送るための頻度を決定するように構成されている。NDPAモジュール1302は、NDPAフレーム422に関して上述した他の情報のうちのいずれかを発生または決定するようにさらに構成されていてもよい。いくつかの態様では、NDPAモジュール1302の機能性は、図2で図示した制御装置230を少なくと

も使用して実現される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0156

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0156】

いくつかの態様では、CSI処理モジュール1314は、受信したCSIフィードバックを分析して、例えば、CSIに、または、CSIフィードバックで示されたチャネル条件の変化に少なくとも部分的に基づいて、NDPAフレームを送るための頻度を決定するように構成されている。この情報は、NDPAモジュール1302に通信されてもよい。いくつかの態様では、CSI処理モジュール1210の機能性は、図2で図示した制御装置230および/またはRXデータプロセッサ242を少なくとも使用して実現される。